

## 公立はこだて未来大学ガイド・マップ

〔未来大学探訪コース〕じっくり訪ね歩いてみたい方へ(所要時間：約 40-60 分)

### 4階デルタピスタから、まずは建物内全体を一望

正面玄関（じつは3階です）から未来大学の建物に入られたら、まず4階の「デルタピスタ」と呼ばれる三角の形をした展望スペースへ直行することをお薦めします。くつろいで談話したり自由討論をするのに使われるこの場所は、見晴らしも最高です。正面のガラスの向こうに、函館山と市街、港や海が一望できます。この建物の基本的な構造も、ここから眺めると一目瞭然。ほぼ全体の空間的配置が一度に見渡せます。

階段状になった1階から5階までのフロアをここから見れば、この学舎が山の斜面に建っている様子が容易に理解できます。ちなみに、正面玄関は3階でした。吹き抜けの巨大な空間をもつ、このガラス張り箱型の校舎は、横幅と奥行きが100m×100m。柱と柱との間隔（1スパン）は、12.6mです。各階ごとに教官の研究室が一行に並んでいて、その前の柱ひとつ分（1スパン）のフロアはオープン・スペースになっています。学生たちが自習やプロジェクト活動に使う場所で、「スタジオ」と呼んでいます。

1階の奥が食堂。その手前に、3つの大きな円形の窪みが見えます。プレゼンテーション・ベイと呼ばれる場所で、科学技術や芸術のさまざまなテーマでの実演が行われるほか、授業にも活用されます。右手奥の黒い床のスペースは「アトリエ」と呼ばれ、デザイン系の授業などに使われます。

再び反対方向に目を転じると、2階に売店が、その上あたりの3階部分に情報ライブラリが見えます。さらにその上に、傾斜のついた一風変わった形の大きな教室が見えます。これが講堂の「くじら」です。4階からも5階からも入れます。

### さあ出発。プレゼンテーションベイやスタジオを体感、図書館と講堂を見学

建物全体のイメージがつかめたら、さっそく探訪開始。デルタピスタを出て、4階の中空廊下を歩いてみると、不思議な空間感覚が味わえます。そこを通過して、エレベータか階段で1階まで降りてみましょう。食堂を覗き、プレゼンテーション・ベイに腰掛けて、ひと休み。ここから上を眺めると、巨大な空間を身体で感じる事ができるはず。ちょっと建物の外へ出てみるのも、いいかも知れません。

さて、ちょっと階段を上がってみましょうか。2階か3階のスタジオにしばらく立ち寄り、この大学の学習環境を体感してみるのはいかが。手頃なテーブルを見つけ、椅子に腰をおろせば、ここの学生の気分が味わえます。どのテーブルでもコンピュータが使える、ネットワークと接続できるのが、ここの自慢。スタジオの前には、教官たちの研究室が並んでいます。ここも、ガラス張り。スタジオや研究室の配置やデザインには、この大学の理念が反映されています。あらゆる垣根を、さまざまな学問分野間の、教官と学生の間、大学と社会との間の垣根を可能な限り取り払ってしまおう、という理念です。ここで何が起きている、未来を担うべき学生たちが何を新たに経験しようとしているか、その一端にでも、ぜひ触れてみてください。

時間があれば、情報ライブラリにもどうぞ。ここのライブラリは、大学人が利用するだけでなく、函館圏の一般の方々にも開放されています。司書の方々に、こんにちは。次いで書架を眺めるのもよし、そこを通り抜けて景色の素晴らしい閲覧室でくつろぐのもよし。しゃれたデザインの自習用の机や椅子、AV資料にアクセスする最新の機器、そして一番奥は最高の眺望スポットに魅力的なインテリア。コーヒーかビールが欲しくなるかも。でもここは図書館。カフェバーではないので飲食はできません。悪しからず。

図書館の上の講堂（くじら）にも、ぜひ寄ってみてください。正式の入り口は4階に

あります。映像を投射できる大スクリーンが2つ。部屋を暗くする必要があるときは、タッチパネルの操作ひとつで、すべてのブラインドを自動的に下ろすことができます。280名がゆったり使える机と椅子。机の上にはノート型パソコンと書籍の両方が置けるスペースがとってあります。一番前の列は、車椅子の方でも大丈夫。

### 事務局の前を通って、さまざまなタイプの教室群を見学へ

講堂から函館山を背に通路を歩いてゆくと、突き当たり右手に見えるのが事務局。この大学を設置した、函館市・上磯町・大野町・七飯町・戸井町の1市4町で組織する函館圏公立大学広域連合のスタッフが働いています。事務局の前は、ちょっとした広場になっていて、学生用の掲示板4面が置かれ、喫煙スペースも（ここと5階ホワイエを除き、全館禁煙です）。事務局の面々、教官たちが、絶えず出入りするがこの広場。

事務局を背にここから通路を入ってゆくと、さまざまなタイプの教室群が両側に見えてきます。4、5階に集められた大中小の講義室や演習室は、すべてガラス張り。教室内の様子が外からも見てとれます。教室のサイズ、机や椅子の形・色・配置、教室ごとの設備に、さまざまな違いがあることもわかります。

たとえば、経済学実験室では、完全に仕切られた各机に置かれたコンピュータの画面は、ほかの席からは決して見えないようになっています。このラボは、人間の経済行動をコンピュータを使った実験を通じて探るためのもの。だから、経済競争のプレーヤーとして模擬実験に参加する人たちは、お互いの手の内がわからないようになっています。

これとは対照的に、C&D教室には、可動式のカラフルな面白い形のテーブルや椅子が、楽しげに配置されています。フレキシブルな環境を用意して、協調的な相互学習を支援するためです。ところで、C&Dって、何の略だと思います？ “Communication and Design” ピンポン！それが元々の由来です。けれども、“Cats & Dogs”でも“Chatting & Dancing”でも正解です。あなたの自由な創意で思いついたものすべてが、ピンポン！なのです。この大学は、そうした遊び心を何よりも大切にしています。

### 3階のモールを歩き、ミュージアムと体育館や大講義室に立ち寄ってみる

3階正面玄関からの広い通路は、広場とっていい空間で、「モール」と呼んでいます。モールの両側には、さまざまな「お店」が並んでいて、シリコンショップ、グラフィックショップ、エレクトロニックショップ、クラフトショップといった名前がついています。前二者は、最新のコンピュータとソフトウェアを揃えたお店で、授業にも自習にも研究にも使われます。後二者は、半導体集積回路やセンサ、金属メカなどのハードウェアを扱う工房（ワークショップ）。

モールの入り口、正面玄関から入ってすぐ右手にあるのが、ミュージアム。愛称は、トレジャー・ボックス（宝箱）。さまざまなイベントや展示が企画中で、この大学と周りの地域社会とのよき接点となることを期待しています。ミュージアムから、両側にショップ群が並ぶモール中ほどを過ぎ、いちばん奥の右側に見えるのが体育館。ビッグウェーブジムという名前がついています。その向かいが、最新のAV機器を備えた大講義室。ドルフィンという愛称がつけられています。

そろそろツアーも終わりに近づいてきました。だいたいこれで、ひとめぐり。お時間のある方は、ミュージアムの展示をゆっくりご覧になるなり、気に入った場所を再び訪ねてみてはいかが？ きっと、また楽しい何か（FUN）が発見できるはず。